

令和2年度
第3回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化処理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：令和2年12月18日（金） 13:00 ～ 14:55

場所：WEB 会議システムにより開催

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学大学院 環境科学研究科 教授	吉岡 敏明
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔

議事要旨

I 本日の議事

1. 浪江町対策地域内廃棄物等処理業務（減容化処理）について
2. 大熊町における廃棄物処理業務（減容化処理）について

II 検討内容

1. 浪江町対策地域内廃棄物等処理業務（減容化処理）について

日立造船・安藤・間・神戸製鋼所特定共同企業体（以降、日造 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 燃焼ガスの処理について

委員より、燃焼ガス中の水銀対策として活性炭噴霧を行っているか、との質問があった。日造 JV より、排ガス量に対して一定量の活性炭を吹き込んでおり、適切に対応している、との回答があった。

(2) 作業従事者の被ばく線量について

委員より、作業従事者の年間被ばく線量は管理基準値に比べて十分低いが、有人作業を伴う灰封入施設より仮設灰保管施設の値の方が高い結果となっている理由はなにか、との

質問があった。日造 JV より、灰封入施設は設備にフレキシブルコンテナを乗せた後は作業従事者がフレキシブルコンテナに近づかなくてよい設計になっている一方で、仮設灰保管施設では封入された灰の保管作業を行っており、フレキシブルコンテナに近づく頻度が灰封入施設より多いことが考えられる、との回答があった。

(3) イノシン等軟化処理施設について

委員より、イノシン等軟化処理施設の増設について、有害鳥獣の処理に関する大変良いモデル事例を作っていたいただいた、設計になかったところに追加で対応していただき、敬意を表したい、とのコメントがあった。

2. 大熊町における廃棄物処理業務（減容化処理）について

三菱・鹿島共同企業体（以降、三菱・鹿島 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 排ガス中の硫黄酸化物、窒素酸化物及び塩化水素の変動幅について

委員より、排ガス中の硫黄酸化物、窒素酸化物及び塩化水素について、基準値を満足しているものの変動幅が大きいがどのような理由が考えられるか、との質問があった。三菱・鹿島 JV より、処理対象物の性状のばらつきに由来すると考えられる、との回答があった。

(2) 処理対象物、主灰及び飛灰の保管管理について

委員より、処理対象物、主灰及び飛灰の保管管理のポイントはなにか、との質問があった。三菱・鹿島 JV より、処理対象物については線量が高い場合に距離減衰を考慮して保管すること、主灰及び飛灰については、放射性物質濃度が高いものと低いものを区別すること及び主灰と飛灰を区別して保管することがポイントであり、それにより、おおむね保管したものに依じた空間線量率の分布であることが確認できている、との回答があった。委員より、問題がないことを確認しながら保管しており、今後も適切な方策を検討しながら進めていただきたい、とのコメントがあった。

以上